

# Shavlik

インストールおよびセットアップ  
ガイド



shavlik

## 著作権

Copyright © 2009 - 2014 LANDESK Software, Inc. All rights reserved. この製品は、米国およびその他の国における著作権法および知的財産法ならびに国際条約によって保護されています。

LANDESK Software, Inc. の書面による許可なく、購入者の個人的な使用以外の目的のために、本書のいかなる部分も、あらゆる形式において、あるいはコピーおよび記録を含む電子的、機械的、またはその他の手段において、複製または再送信することが禁止されています。

## 商標

LANDESK および Shavlik は米国およびその他の管轄地域における LANDESK Software, Inc. の登録商標または商標です。本書に記載されているその他のすべてのマークおよび名称は、各会社の商標である場合があります。

本書に記載されているその他のすべての商標、取引名、または画像は各所有者に帰属します。

## 文書情報および印刷履歴

日付	バージョン	説明
2010 年 9 月	Shavlik NetChk Protect 7.6	製品ブランドを更新し、Windows NT 4.0 のサポートを削除し、STExec を作成する必要がなくなりました。
2011 年 3 月	Shavlik NetChk Protect 7.8	新しいシステム要件 (SQL Server 2008 R2 Express、.NET 4.0、VMware、エージェント用の Win XP SP3)、データベース メンテナンス参照、定義インポートの削除。
2011 年 10 月	VMware vCenter Protect 8.0	製品ブランドを更新し、セットアップ ウィザードへの参照を削除し、システム要件を更新し、HTTP プロキシ情報を追加しました。
2012 年 9 月	VMware vCenter Protect 8.0.1	製品名、バージョン、および認証情報を更新し、表紙のグラフィックスを更新しました。
2013 年 5 月	Shavlik Protect 9.0	バージョン 9.0 の一般的な更新。
2013 年 6 月	Shavlik Protect 9.0、パッチ 1	手動認証情報を更新しました。
2014 年 4 月	Shavlik Protect 9.1	システム要件を更新し、インストールおよび認証プロセスを更新し、ローカライズされたヘルプ情報を追加しました。

# 目次

---

Shavlik Protect を使用する前に.....	5
パッチ管理.....	5
資産インベントリ.....	5
ITScripts.....	6
ウイルス対策とスパイウェア対策.....	6
電源管理.....	7
プログラムのエディション.....	8
Shavlik Protect、完全版.....	8
Shavlik Protect、試用版.....	8
Shavlik Protect、政府版.....	8
システム要件.....	9
コンソール.....	9
クライアント（エージェントなし）.....	10
Shavlik Protect Agent を実行するクライアント.....	12
ポート要件.....	13
インストール.....	14
ユーザ アカウント要件.....	14
ソフトウェアの取得.....	14
前提条件ソフトウェアのインストール.....	14
自動インストール.....	14
手動インストール.....	14
SQL Server のインストール前の注記.....	15
新規インストールの実行.....	16
インストール ログ ファイル.....	22
HTTP プロキシのインストール後の注記.....	22
SQL Server のインストール後の注記.....	23
コンピュータ アカウント認証資格情報を許可するようにリモート SQL Server を手動で構成する.....	23
他のユーザによるプログラムへのアクセスを許可する.....	25
データベースでの定期メンテナンスの実行.....	25
製品の使用開始.....	26
Shavlik Protect の起動.....	26
Shavlik Protect の認証.....	26
インターネットに接続している場合.....	27
インターネットに接続していない場合（切断ネットワーク モード）.....	28
安全なオフライン ネットワークから認証する場合.....	28
次の手順.....	29
ライセンスの追跡方法.....	30

このページは意図的に空白にされています。

この文書は両面印刷用です。

## Shavlik Protect を使用する前に

---

Shavlik Protect をご利用いただき、誠にありがとうございます。これは、Microsoft コンピュータを管理および保護するために使用される統合 IT 管理プラットフォームです。Shavlik Protect は一元化された共通のインターフェイスを備えており、このインターフェイスからさまざまな基本的な IT 管理機能を実行できます。

### パッチ管理

Shavlik Protect が提供する業界最高のパッチ管理機能では、ネットワーク内のすべての Windows コンピュータと VMware ESXi Hypervisor をスキャンし、これらのコンピュータの現在のパッチ ステータスを評価できます。スキャンの実行後は、各コンピュータのパッチの「正常性」に関する詳細情報が含まれるレポートを生成できます。次に、Shavlik Protect を使用し、各コンピュータを簡単に自動的に最新の状態に更新できます。簡単な操作で、目的のパッチをダウンロードし、選択したコンピュータに配布できます。配布の実行日時、各コンピュータを再起動するかどうか、コンピュータの再起動時刻を指定することもできます。また、Shavlik Protect には電子メール アラート機能があり、パッチが利用可能なときに通知し、選択したユーザと共有するスキャン結果およびその他の情報を電子メールで送信できます。

パッチ管理機能はエージェントの有無に関係なく実行できます。この独自のエージェントに基づく技術とエージェントを使用しない技術を組み合わせることで、管理負荷を最小化しながら、最大限の柔軟性を得ることができます。

### 資産インベントリ

資産インベントリ機能では、ソフトウェア、ハードウェア、および仮想資産を追跡できます。この機能は物理コンピュータと仮想コンピュータの両方で動作します。スキャンを実行し、物理コンピュータとオンライン仮想コンピュータに含まれるソフトウェアおよびハードウェアを検出して分類できます。また、オンラインおよびオフライン仮想コンピュータのプロパティをスキャンできます。スキャンの実行後すぐに、ソフトウェア、ハードウェア、および仮想資産の詳細情報が表示されます。また、レポートを作成し、経時的に資産インベントリを追跡できます。

パッチ管理機能のように、資産インベントリ機能はエージェントの有無に関係なく実行できます。

はじめに

## ITScripts

**メモ:**ITScripts 機能は Shavlik Protect Advanced でのみ提供されています。Shavlik Protect Standard を使用し、この機能をすべて使用したい場合は、営業担当者にお問い合わせのうえ、Shavlik Protect ライセンスをアップグレードしてください。

ITScripts 機能では、既に Shavlik Protect で定義されているコンピュータとコンピュータ グループに対して、PowerShell スクリプトを実行できます。このスクリプト機能によって次の操作が可能です。

- Shavlik が提供するすべての定義済みスクリプトにアクセスする
- カスタム スクリプトをインポートする
- カスタム スクリプトを ITScripts コミュニティと共有する
- スクリプトをただちに実行する
- 将来の指定した日時にスクリプトを実行するようにスケジュールを作成する
- Windows PowerShell リモート機能を使用するか、使用せずに、スクリプトを実行する
- Shavlik Protect から実行されたすべてのスクリプトの結果を表示する

## ウイルス対策とスパイウェア対策

**メモ:**脅威管理（ウイルス対策およびスパイウェア対策）は Shavlik Protect Advanced でのみ提供されています。Shavlik Protect Standard を使用し、この機能を使用したい場合は、営業担当者にお問い合わせのうえ、Shavlik Protect ライセンスをアップグレードしてください。

脅威管理機能ではウイルス対策とスパイウェア対策が 1 つのエンジンに統合され、Microsoft ネットワーク コンピュータに存在する可能性のある各種脅威をスキャンして排除できます。現在の無数に存在する非常に複雑な脅威に対する強力な保護を提供します。システム リソースの使用を最低限に抑え、コンピュータ パフォーマンスの大幅な低下を引き起こすことはありません。シームレスかつ作業の邪魔にならないように設計されているため、最低限の通知ポップアップと警告しか表示されません。

脅威管理機能には 2 つの形式の脅威保護があります。

- **Active Protection:** エージェント コンピュータで実行され、マルウェア プログラムによって頻繁に修正される特定のセキュリティ構成設定と値の変更を監視するリアルタイムのサービス。変更が検出された場合、ただちに対応して設定を元の値に戻し、マルウェアの影響からコンピュータを保護します。
- **Scheduled Protection:** エージェント コンピュータで定期的に行われるスケジュールされたサービス。管理者が定義するオプションを使用して、スキャンと脅威の修正を実行します。スケジュールされた保護では、1 時間に 1 回、自動的にスキャンを実行し、検出された脅威を削除できます。

脅威管理機能は Shavlik Protect Agent 機能を使用して、エージェント モードで動作します。このため、パッチ管理とウイルス対策保護を 1 つのエージェントで実行できます。

## 電源管理

**メモ:**電源管理は Shavlik Protect Advanced でのみ提供されています。Shavlik Protect Standard を使用し、この機能を使用したい場合は、営業担当者にお問い合わせのうえ、Shavlik Protect ライセンスをアップグレードしてください。

電源管理機能では、社内のコンピュータの電源状態を制御できます。電源管理を使用する主な理由は次のとおりです。

- メンテナンス タスクに備えてコンピュータを準備する
- 騒音および電力消費量を削減する
- 運用コストを削減する
- バッテリーの寿命を長くする

即時またはスケジュールに基づいて、コンピュータをシャットダウン、再起動、またはウェイクアップできます。スケジュールされた再起動を実行するときには、完全電源オン、スリープモード、または休止モードのいずれかから、コンピュータの電源状態を指定できます。電源管理機能はエージェントの有無に関係なく実行できます。

はじめに

## プログラムのエディション

Shavlik Protect は次の 2 つの製品バンドルで提供されています。

- Shavlik Protect Standard: これは基本的な製品であり、パッチ管理、資産インベントリ、および一定数の IT 管理用スクリプトが提供されています。
- Shavlik Protect Advanced: これは全機能を備えた製品であり、パッチ管理、資産インベントリ、ウイルス対策/スパイウェア対策、電源管理、構成管理、および完全な ITScripts 機能が提供されています。

Shavlik Protect には複数のエディションがあります。各版では、異なるレベルの機能が提供されています。実行中のエディションを確認するには、[ヘルプ] > [Shavlik Protect のバージョン情報] を選択し、プログラムの詳細情報を表示します。

このセクションには、使用可能な各エディションの概要が表示されます。

### Shavlik Protect、完全版

これは完全版プログラムです。Shavlik Protect を使用すると、インストールされていないパッチのスキャンとインストールを実行し、このような処理結果を表示できます。また、プログラムライセンスで提供されているその他のすべての機能 (Shavlik Protect Standard または Shavlik Protect Advanced) も使用できます。

### Shavlik Protect、試用版

Shavlik Protect の試用版も提供されています。60 日間のみ、Shavlik Protect の全機能を試用できます。50 ライセンスに限定することもできます。試用版ライセンスの有効期限が切れると、XML データ ファイルの更新が停止し、プログラム機能のほとんどが使用できなくなります。

### Shavlik Protect、政府版

Shavlik Protect 政府版 を購入すると、Information Assurance Vulnerability Alert (IAVA) Reporter を使用するためのライセンス キーが付属しています。IAVA 固有のファイルは、Shavlik Protect Standard または Shavlik Protect Advanced をインストールするときに、自動的にインストールされます。



## システム要件

### コンソール

#### 制限事項:

- コンソール コンピュータでは、NTFS ファイル システムが必要です。
- LDAP 証明書認証を使用するドメイン コントローラでコンソールをインストールする場合、SSL 証明書と Shavlik Protect プログラム証明書間の競合の問題を回避するようにサーバを構成しなければならない場合があります。Windows Server 2003 ドメイン コントローラでは簡単な構成方法がなく、この組み合わせはコンソールでの使用には推奨されていません。
- データベースを共有する複数のコンピュータにコンソールをインストールする場合は、ユーザ認証資格情報の問題を防止するために、すべてのコンソール コンピュータに一意的なセキュリティ ID (SID) が必要です。仮想マシンのコピーを作成する場合や使用しないコンピュータが存在する場合は、SID が重複する可能性が高くなります。

#### プロセッサ:

- 最低:2 GHz 以上の 2 台のプロセッサ コア
- 推奨:2 GHz 以上の 4 台のプロセッサ コア (250 ~ 1000 ライセンス)
- 高パフォーマンス:2 GHz 以上の 8 台のプロセッサ コア (1000 以上のライセンス)

#### メモリ:

- 最低:2 GB の RAM
- 推奨:4 GB の RAM (250 ~ 1000 ライセンス)
- 高パフォーマンス:8 GB の RAM (1000 以上のライセンス)

#### ビデオ:

- 1024 x 768 以上の画面解像度 (1280 x 1024 推奨)

#### ディスク領域:

- アプリケーション用に 100 MB
- パッチ リポジトリ用に 2 GB 以上

#### オペレーティング システム (次のいずれか):

**メモ:**Shavlik Protect は、次の一覧で示す 64 ビット バージョンのオペレーティング システムをサポートします。コンソールでは 32 ビット バージョンはサポートされていません。

- Windows Server 2012 Family R2 (Server Core を除く)
- Windows Server 2012 Family (Server Core を除く)
- Windows Server 2008 Family R2 SP1 以降 (Server Core を除く)
- Windows 8.1 以降 (Windows RT を除く)
- Windows 7 SP1 以降、Professional、Enterprise、または Ultimate Edition

## はじめに

### データベース:

- Microsoft SQL Server データベース [SQL Server 2005 (Full または Express Edition) 以降]SQL Server データベースにアクセスできない場合、前提条件ソフトウェア インストール処理中に、SQL Server 2012 Express Edition SP1 をインストールするオプションを使用できます。
- サイズ:1.5 GB

### 前提条件ソフトウェア:

- Microsoft SQL Server 2005 (Full または Express Edition) 以降
- Microsoft .NET Framework 4.5 以降  
この前提条件ソフトウェアがインストールされていない場合、インストール処理中に Microsoft .NET Framework 4.5.1 がインストールされます。
- Windows Management Framework 4.0 (ITScripts 機能に必要な Windows PowerShell 4.0 を含む)  
Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2 には既に PowerShell 4.0 がインストールされているため、これらのオペレーティング システムにはこの前提条件は適用されません。

### Windows アカウント要件:

- Shavlik Protect の全機能を利用するには、管理者権限のあるアカウントで実行する必要があります。

### 構成要件:

- コンソール コンピュータの資産スキャンを実行するときには、Windows Management Instrumentation (WMI) サービスを有効にし、コンピュータへのプロトコルを許可する必要があります。Windows XP/Windows 2003 コンピュータの Windows ファイアウォールでは、このサービス名は Remote Administration です。それより後のバージョンのコンピュータでは、サービス名は Windows Management Instrumentation (WMI)/Remote Administration です。

## クライアント (エージェントなし)

### オペレーティング システム (次のオペレーティング システムの 32 ビットおよび 64 ビットバージョン)

**メモ:**パッチ配布を受信するために、Windows 2000 コンピュータには、Internet Explorer 7.0 以降が必要です。

- Windows 2000 Professional
- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server
- Windows 2000 Datacenter Server
- Windows 2000 Small Business Server
- Windows XP Professional
- Windows XP Tablet PC Edition
- Windows XP Embedded
- Windows Server 2003、Enterprise Edition
- Windows Server 2003、Standard Edition
- Windows Server 2003、Web Edition
- Windows Server 2003 for Small Business Server
- Windows Server 2003、Datacenter Edition

- Windows Vista、Business Edition
- Windows Vista、Enterprise Edition
- Windows Vista、Ultimate Edition
- Windows 7、Professional Edition
- Windows 7、Enterprise Edition
- Windows 7、Ultimate Edition
- Windows Server 2008、Standard
- Windows Server 2008、Enterprise
- Windows Server 2008、Datacenter
- Windows Server 2008、Standard - Core
- Windows Server 2008、Enterprise - Core
- Windows Server 2008、Datacenter - Core
- Windows Server 2008 R2、Standard
- Windows Server 2008 R2、Enterprise
- Windows Server 2008 R2、Datacenter
- Windows Server 2008 R2、Standard - Core
- Windows Server 2008 R2、Enterprise - Core
- Windows Server 2008 R2、Datacenter - Core
- Windows 8
- Windows 8 Pro
- Windows 8 Enterprise
- Windows 8.1
- Windows 8.1 Enterprise
- Windows Server 2012、Foundation Edition
- Windows Server 2012、Essentials Edition
- Windows Server 2012、Standard Edition
- Windows Server 2012、Datacenter Edition
- Windows Server 2012 R2、Essentials Edition
- Windows Server 2012 R2、Standard Edition
- Windows Server 2012 R2、Datacenter Edition

#### 仮想マシン（次のいずれかによって作成されたオフライン仮想イメージ）:

- VMware ESXi 4.1 以降（仮想マシンでは VMware ツールが必要です）
- VMware vCenter（旧名称 Mware VirtualCenter）4.1 以降（仮想マシンでは VMware ツールが必要です）
- VMware Workstation 9.0 以降
- VMware Player

#### 構成要件

- リモート レジストリ サービスを実行する必要があります。
- 簡易ファイル共有をオフにする必要があります。
- サーバ サービスを実行する必要があります。
- NetBIOS (TCP 139) または Direct Host (TCP 445) にアクセス可能である必要があります。
- Windows Vista 以降のオペレーティング システムにパッチを配布するときには、Windows 更新サービスの [スタートアップ] タイプを [手動] または [自動] に設定する必要があります。
- コンソールで対象コンピュータとの RDP 接続を作成するには、リモート デスクトップ接続を許可する必要があります。

はじめに

- 資産スキャンを実行するときには、Windows Management Instrumentation (WMI) サービスを有効にし、コンピュータへのプロトコル (TCP ポート 135) を許可する必要があります。Windows XP/Windows 2003 コンピュータの Windows ファイアウォールでは、このサービス名は Remote Administration です。それより後のバージョンのコンピュータでは、サービス名は Windows Management Instrumentation (WMI)/Remote Administration です。

**サポートされている製品 (パッチ プログラム):**

- 最新の一覧については、<http://xml.shavlik.com/data/supportedproduct78.htm> を参照してください。

**ディスク領域 (パッチ プログラム):**

- 空き領域は配布中のパッチのサイズの 5 倍と同じサイズでなければなりません。

**サポートされている言語 (パッチ プログラム):**

- アラビア語、中国語 (簡体)、中国語 (繁体)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ポルトガル)、ロシア語、スペイン語、スウェーデン語、タイ語、トルコ語

**Shavlik Protect Agent を実行するクライアント**

**メモ:** エージェント コンピュータでは、NTFS ファイル システムが必要です。

**プロセッサ:**

- 500 MHz 以上の CPU

**メモリ:**

- 最低: 256 MB の RAM
- 推奨: 512 MB 以上の RAM

**ディスク領域:**

- Shavlik Protect Agent クライアント用に 30 MB
- パッチ リポジトリ用に 500 MB 以上

**オペレーティング システム (ホーム エディションを除く、次のオペレーティング システムのすべて):**

- Windows XP (64 ビット = SP2 以降、32 ビット = SP3 以降)
- Windows Vista Family
- Windows 7 Family
- Windows 8 Family (Windows RT を除く)
- Windows Server 2003 Family SP3 以降
- Windows Server 2008 Family
- Windows Server 2008 Family R2
- Windows Server 2012 Family
- Windows Server 2012 Family R2

**前提条件ソフトウェア**

- MSXML 3.0 以上

**構成要件**

- ワークステーション サービスを実行する必要があります。

## ポート要件

既定のポート要件は次のとおりです。複数のポート番号が設定可能でなければなりません。

受信ポート (基本 NAT ファイアウォール)										
	TCP 80	TCP 135	TCP 137 ~ 139 または TCP 445 (Windows ファイル共有/ディレクトリサービス)		TCP 443	TCP 3121	TCP 3122	TCP 4155	TCP 5120	TCP 5985
クライアントシステム		X (資産スキャン用)	X	X				X (リスニングエージェント用)	X	X (WinRM プロトコル用)
コンソールシステム						X	X			
配布サーバ	X		X	X	X					

送信ポート (非常に制限されたネットワーク環境)							
	TCP 80	TCP 137 ~ 139 または TCP 445 (Windows ファイル共有/ディレクトリサービス)		TCP 443	TCP 3121	TCP 5120	UDP 9
クライアントシステム	X (エージェント用)	X	X	X (クラウドエージェント用)	X (エージェントおよび配布追跡用)		
コンソールシステム	X	X	X	X (クラウド同期用)		X	X (WoL およびエラー報告用)

# インストール

---

## ユーザ アカウント要件

- SQL Server データベースを作成するためには、新しいインストールを実行するユーザが db\_owner ロールのメンバーでなければなりません。
- 新しいコンソールにプログラムをインストールし、既存のデータベースにリンクしている場合、ユーザ アカウントには、db\_datareader、db\_datawriter、STExec、および STCatalogupdate 権限が必要です。これらのアクセス権を付与する最も簡単な方法は、db\_securityadmin および db\_accessAdmin ロールにユーザを追加することです。

## ソフトウェアの取得

Shavlik Protect は Web サイトのダウンロード センターからダウンロードできます。す:<http://www.shavlik.com/downloads.aspx> ダウンロード センターには、常に利用可能な最新バージョンの Shavlik Protect があります。

## 前提条件ソフトウェアのインストール

### 自動インストール

Shavlik Protect インストール中に、前提条件を自動的にインストールできます。

### 手動インストール

前提条件を自分でダウンロードおよびインストールする場合は、次の URL を使用します。オペレーティング システムには既にほとんどの前提条件が含まれている場合があるため、インストールされていない前提条件だけをインストールしてください。

#### SQL Server 2012 Express Edition SP1

完全版の SQL Server がない場合にのみ必要です。

<http://www.microsoft.com/sqlserver/en/us/get-sql-server/try-it.aspx>

#### .NET Framework 4.5.1

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=40773>

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=40779> (オフライン環境)

#### Windows Management Framework 4.0

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=40855>

## SQL Server のインストール前の注記

Shavlik Protect では、すべてのスキャン、パッチ配布、および脅威修正結果が SQL Server データベースに保存されます。SQL Server バックエンドにより、パッチ管理と脅威管理タスクを実行する全担当者間で、リアルタイムのコラボレーションとナレッジ管理が可能です。SQL Server データベースを使用する利点は次のとおりです。

- 少数または多数のコンピュータをスキャンするときの高パフォーマンス
- リモート コンピュータでのデータの保存
- 複数の Shavlik Protect コンソールがテンプレート、コメント、レポート、およびスキャン結果を共有可能

Shavlik Protect をインストールする前には、次の SQL Server の注記を確認してください。

- Microsoft SQL Server が必要です。  
SQL Server がない場合、Shavlik Protect のインストール処理中に、Microsoft SQL Server 2012 Express Edition SP1 がコンソール コンピュータにインストールされます。SQL Server 2012 をサポートしない古いオペレーティング システムを使用している場合、Microsoft SQL Server 2008 R2 Express Edition SP2 がインストールされます。
- Microsoft SQL Server の Express Edition を使用している場合は、Microsoft SQL Server Management Studio Express のダウンロードとインストールを検討してください。この無料ソフトウェアを使用し、データベースのバックアップと管理が可能です。
- SQL Native Client が以前にインストールされている場合は、SQL Express のインストールが失敗する場合があります。インストールを実行する前に、**【プログラムの追加と削除】**を使用して、SQL Native Client をアンインストールすることを強くお勧めします。
- 指定された SQL Server へのアクセス権が必要です。指定された SQL Server へアクセスするために、Windows 認証または SQL Server 認証がサポートされています。管理者アクセス権は不要ですが、指定された SQL Server の製品データベースを作成および入力する権限が必要です。また、Shavlik Protect コンソール コンピュータのバックグラウンド サービスが SQL Server にアクセスできなければなりません。すべてのバックグラウンド サービスはコンソールの LocalSystem アカウントで実行されます。リモートサーバで統合 Windows 認証を使用している場合は、必ず、SQL Server のコンソール ログイン アカウントを定義するときのコンピュータ アカウントを使用してください。

**メモ:**セキュリティ上の理由から、Shavlik は可能な限り Windows 認証を使用することをお勧めします。Shavlik Protect コンソールからの Windows 認証資格情報を許可するためのリモート SQL Server の構成については、「**SQL Server Post-Installation Notes**」を参照してください。

- データベースを作成するには、インストール処理中に指定するユーザ アカウントに *dbcreator* ロールを割り当てる必要があります。
- リモート コンピュータで SQL Server を使用している場合は、リモート接続を許可するようにサーバを構成する必要があります。この操作は、SQL Server 構成マネージャを使用して実行できます。
- 冗長化のためにクラスタ化された構成を使用する場合は、インストール前に構成する必要があります。次に、インストール処理中に仮想クラスタ インスタンスを参照します。SQL Server 2005 Express Edition、SQL Server 2008 R2 Express Edition、または SQL Server 2012 Express Edition では、クラスタ構成がサポートされていません。

## 新規インストールの実行

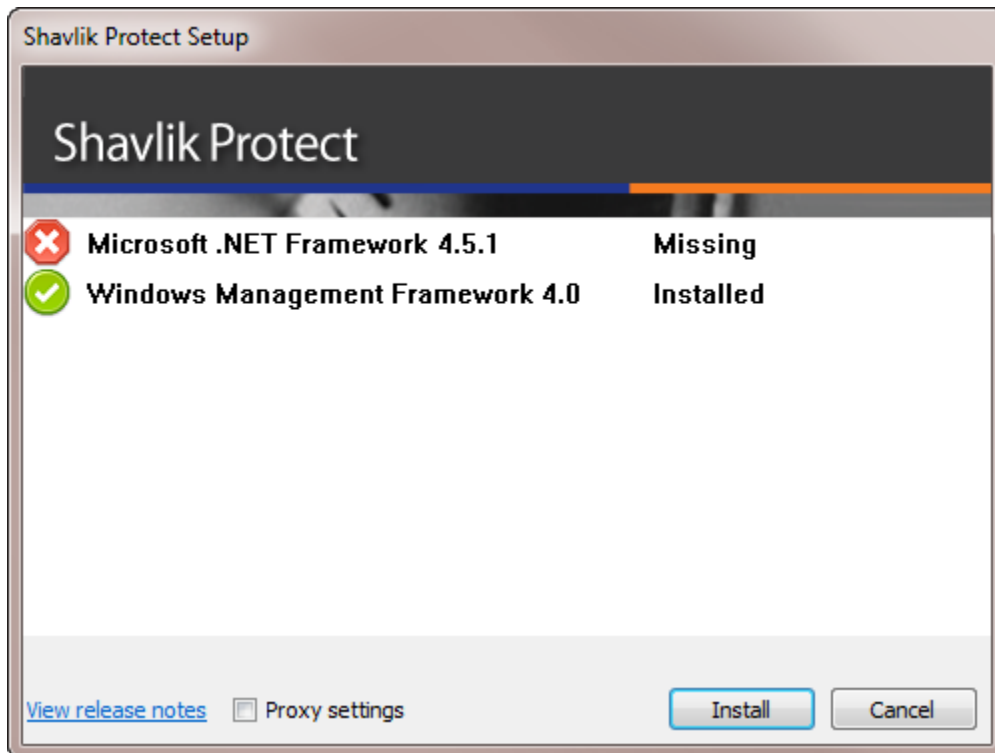
**重要!**前のバージョンからアップグレードする場合は、この手順を実行しないでください。Web サイトにあるアップグレード ガイドを参照してください。

<http://www.shavlik.com/support/onlinehelp.aspx>

**メモ:**切断されたコンピュータにインストールし、前提条件ソフトウェアのいずれかがインストールされていない場合、インストール処理を開始する前に、接続されたコンピュータから必要なソフトウェアをダウンロードし、接続されたコンソールに手動でインストールする必要があります。

1. インストールを開始するには、Shavlik Protect 実行ファイルをダブルクリックします。

前提条件プログラムがインストールされていない場合は、[セットアップ] ダイアログに表示されます。前提条件プログラムがインストールされている場合は、手順 2 ~ 4 を省略し、直接手順 5 の [よろこそ] ダイアログに移動します。



2. ブラウザを起動し、インターネットを閲覧するたびに、ユーザ名およびパスワードを入力する必要がある場合、[プロキシ設定] チェック ボックスをオンにし、リンクをクリックしてから、必要な認証資格情報を入力します。

ユーザ名の一部としてドメインを指定しなければならない場合があります (例: mydomain¥my.name)。後からこれらの設定を修正するには、[ツール] > [オプション] > [プロキシ] を選択します。

また、インストールの完了後に、HTTP プロキシ情報を修正しなければならない場合があります。詳細については、「HTTP プロキシのインストール後の注記」を参照してください。



3. **【インストール】** ボタンをクリックし、インストールされていない前提条件をインストールします。

前提条件の一部には、インストール後に再起動が必要なものがあります。この場合、続行する前に、インストール プログラムによって、システムの再起動が要求されます。再起動後、インストール プログラムが自動的に再起動します。

4. (条件) 再起動が必要な前提条件がインストールされていない場合、インストールを続行するには、再起動後に **【インストール】** をクリックします。
5. **【よろこそ】** ダイアログの情報をお読みになってから、**【次へ】** をクリックします。

使用許諾契約が表示されます。プログラムをインストールするには、使用許諾契約の条項に同意する必要があります。

6. インストールを続行するには、**【次へ】** をクリックします。

**【インストール先フォルダ】** ダイアログが表示されます。

7. プログラムの既定の場所を変更する場合は、**【参照】** ボタンをクリックし、新しい場所を選択します。

**ヒント:** ショートカット アイコンをデスクトップ上に作成する場合は、**【デスクトップにショートカットを作成する】** チェック ボックスをオンにします。

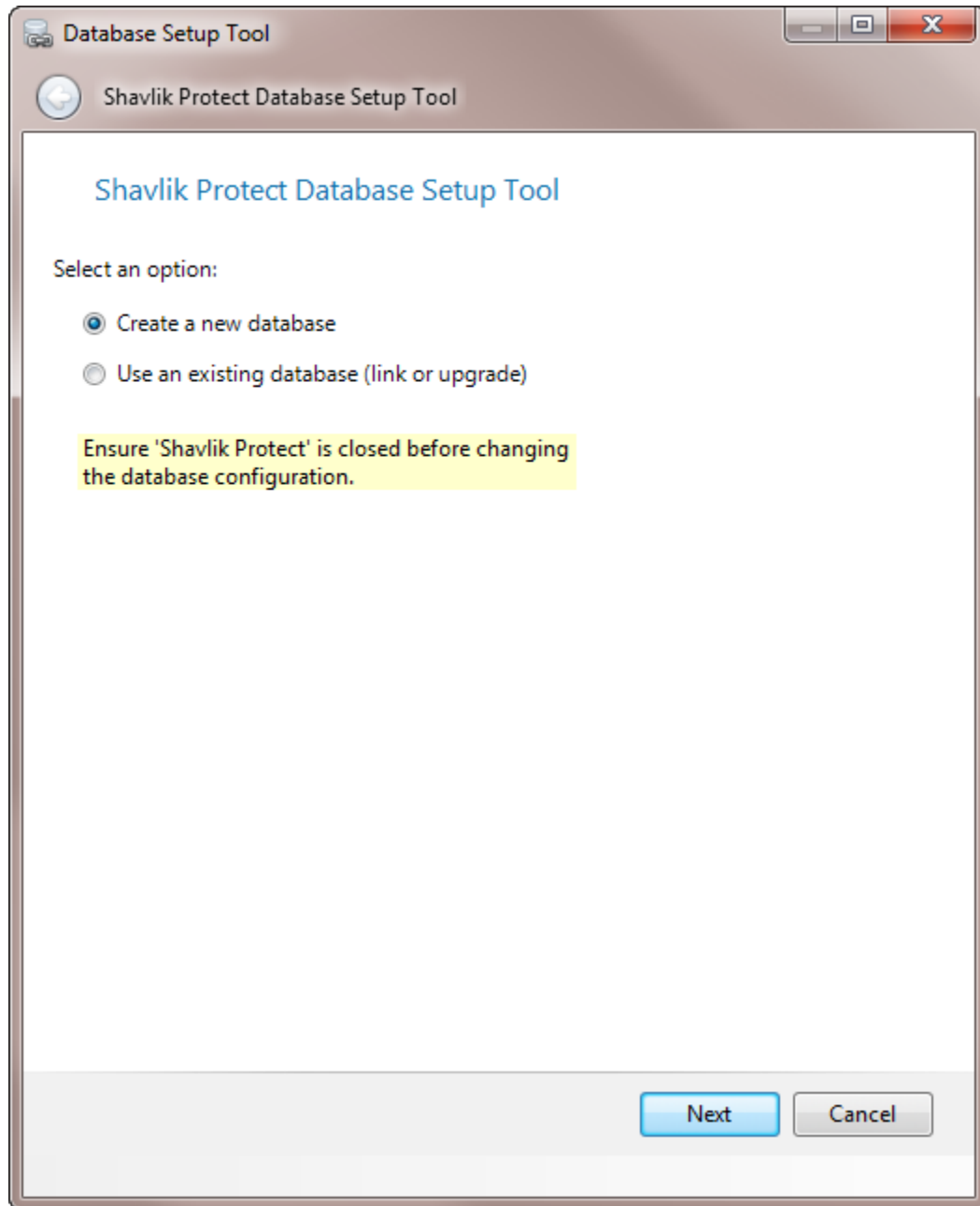
8. **【次へ】** をクリックします。

**【製品改善プログラム】** ダイアログが表示されます。説明をお読みになり、プログラムに参加することに同意するかどうかを決定します。このプログラムでは、LANDESK Software, Inc. が、今後の製品バージョンを改善する目的で、製品の使用状況情報を収集できます。

完了したら、**【次へ】** をクリックします。**【インストール準備完了】** ダイアログが表示されます。

9. インストールを開始するには、**【インストール】** をクリックします。

インストール処理が終わりに近づくと、**【データベース セットアップ ツール】** ダイアログが表示されます。



10. 使用する Shavlik Protect データベースが既にインストールされている場合、**「既存のデータベースを使用する」**を選択し、**「次へ」**をクリックします。それ以外の場合、**「新しいデータベースを作成する」**を選択し、**「次へ」**をクリックします。

次のようなダイアログが表示されます。

Database Setup Tool

Shavlik Protect Database Setup Tool

### SQL Database Configuration

**Choose a database server and instance**

Server name: JOE-DELLWIN7\SQLEXPRESS

Database name: Protect

**Choose how interactive users will connect to the database**

Authentication method: Integrated Windows Authentication

User name:

Password:

Test server connection

**Choose how services will connect to the database**

Using Integrated Windows Authentication with remote databases requires Kerberos.

Use alternate credentials for console services

Authentication method: Integrated Windows Authentication

User name:

Password:

Next Cancel

11. 指定されたボックスを使用し、ユーザおよびサービスが SQL Server データベースにアクセスする方法を定義します。

#### データベース サーバとインスタンスの選択

- **サーバ名**: コンピュータを指定するか、コンピュータおよびコンピュータで実行中の SQL Server インスタンスを指定できます (例: *machinename*\SQLEXPRESS)。SQL Server が既にインストールされている場合は、ローカル SQL Server インスタンス名がこのボックスに自動的に入力されます。
- **データベース名**: 使用するデータベース名を指定します。既定のデータベース名は **Protect** です。

### ユーザによる対話方式でのデータベース接続方法の選択

ユーザがデータベースへのアクセスを必要とする処理を実行するときに、プログラムで使用する認証資格情報を指定します。

- **統合 Windows 認証:**これは推奨される既定のオプションです。Shavlik Protect は現在ログインしているユーザの認証資格情報を使用して、SQL Server データベースに接続します。[ユーザ名] および [パスワード] ボックスは使用できません。
- **特定の Windows ユーザ:**SQL Server データベースがリモート コンピュータにある場合にのみ、このオプションを選択します。これにより、特定の Windows ユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定できます。データベースがローカル (コンソール) コンピュータにある場合は、このオプションの効果はありません。(ローカル コンピュータ認証資格情報の詳細については、『**Shavlik Protect 管理ガイド**』の「**認証資格情報の指定**」を参照してください。)すべての Shavlik Protect ユーザは、リモート SQL Server データベースを操作する必要がある処理を実行するときに、指定された認証資格情報を使用します。
- **SQL 認証:**このオプションを選択すると、指定された SQL Server にログインするための特定の SQL Server ユーザ名およびパスワードの組み合わせを入力できます。

**注意!**SQL 認証資格情報を指定し、SQL 接続の SSL 暗号化が実装されていない場合、認証資格情報はクリア テキスト形式でネットワーク上に渡されます。

- **サーバ接続のテスト:**指定したインタラクティブ ユーザ認証資格情報を使用して SQL Server データベースに接続できることを検証するには、このボタンをクリックします。

### サービスによるデータベース接続方法の選択

データベースに接続するときに、バックグラウンド サービスで使用する認証資格情報を指定します。SQL Server にログインし、ステータス情報を提供するために、結果のインポート ユーザ、エージェント処理、および他のサービスが使用する認証資格情報があります。

- **コンソール サービスで別の認証資格情報を使用する:**
  - SQL Server データベースがローカル コンピュータにインストールされている場合、一般的に、このオプションを無視するには、チェック ボックスを**オフ**にします。この場合、インタラクティブ ユーザに対して指定した認証資格情報および認証モードが使用されます
  - 通常、SQL Server データベースがリモート コンピュータにある場合にのみ、このチェック ボックスを**オン**にします。データベースがリモート コンピュータ上にある場合、リモート データベース サーバのデータベースで認証できるアカウントが必要です。
- **認証方法:**[**コンソール サービスで別の認証資格情報を使用する**] が有効な場合にのみ使用できます。
  - **統合 Windows 認証:**このオプションを選択すると、リモート SQL Server に接続するためにコンピュータ アカウントが使用されます。認証資格情報を安全に送信するためには、Kerberos ネットワーク認証プロトコルが使用できなければなりません。[ユーザ名] および [パスワード] ボックスは使用できません。

**メモ:**[**統合 Windows 認証**] を選択した場合、コンピュータ アカウントで SQL Server ログイン情報を作成使用とします。アカウント作成処理が失敗した場合、リモート SQL Server を手動で構成し、コンピュータ アカウント認証資格情報を許可する手順について、23 ページの「**SQL Server のインストール後の注記**」を参照し

てください。この手順は、Shavlik Protect のインストール処理が完了した後、プログラムを起動する前に実行します。

- **特定の Windows ユーザ:**これにより、特定のユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定できます。Shavlik Protect のバックグラウンド サービスでは、これらの認証資格情報を使用して、SQL Server データベースに接続します。これは、何らかの理由により、統合 Windows 認証を実装できない場合、優れたフォールバック オプションになります。
- **SQL 認証:**このオプションを選択すると、SQL Server にログインするときに使用するサービスで、特定の SQL Server ユーザ名およびパスワードの組み合わせを指定します。

12. すべての必須情報を入力した後、**[次へ]** をクリックします。

**メモ:**インストール プログラムで、指定した認証資格情報に関する問題が検出された場合、エラー メッセージが表示されます。通常、これは指定したユーザ アカウントが存在しないことを示します。修正してから、再試行してください。

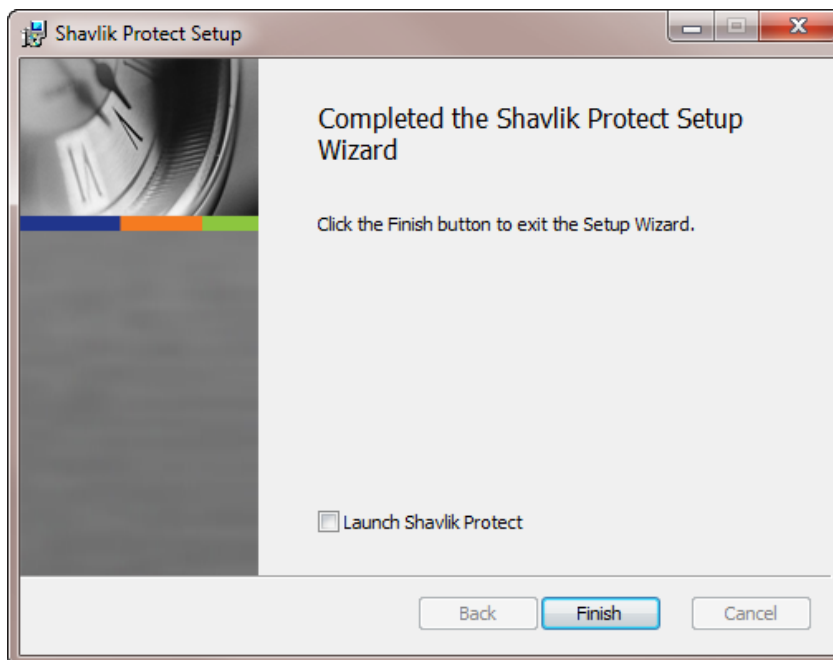
データベースの作成、リンク、またはアップグレードが実行されます。データベース処理が完了すると、**[データベース インストール完了]** ダイアログが表示されます。

13. **[次へ]** をクリックします。

**[インストール完了]** ダイアログが表示されます。

14. **[完了]** をクリックします。

**[完了]** ダイアログが表示されます。



15. Shavlik Protect をただちに起動する場合は、**[Shavlik Protect を起動する]** チェック ボックスをオンにし、**[完了]** をクリックします。ただちに再起動しない場合は、**[完了]** をクリックします。

## インストール ログ ファイル

インストールに関する質問やヘルプが必要な問題がある場合は、Shavlik Technical サポート担当者に問い合わせる前に、インストール ログ ファイルを見つけてください。インストール ログは次の場所にあります。C:\Users\user name\AppData\Local\Temp

このディレクトリには次の 3 つのインストール ログ ファイルがあります。

- メイン インストール ログ ファイル:ProtectSetup\_date\_time.log
- 前提条件インストール ログ ファイル:PreSetupdate.log
- Windows インストーラ ログ ファイル:ProtectInstall\_date\_time.log

## HTTP プロキシのインストール後の注記

HTTP プロキシを使用してインターネットにアクセスする場合には、次の要件に注意してください。

- ブラウザのプロキシ サーバ設定で [ローカル アドレスにはプロキシ サーバを使用しない] チェック ボックスをオンにする必要があります。これらの設定を表示するには、Internet Explorer の [ツール] メニューで [インターネット オプション] をクリックし、[接続] タブをクリックしてから、[LAN 設定] をクリックします。[ローカル アドレスにはプロキシ サーバを使用しない] チェック ボックスをオンにすると、Shavlik Protect コンソールがローカル ネットワークのコンピュータに接続するときに、プロキシ サーバが使用されません。
- コンソール サービスは、ユーザ単位のプロキシ アドレス情報を読み取ることも参照することもしません。コンソール サービスのプロキシ アドレスを構成するには、STServiceHost.exe.config ファイルを手動で修正し、proxy、bypass local、およびbypasslist を定義する既定のプロキシ XML タグを含める必要があります。このためには、基本の <configuration> 要素の下に次の XML を追加します。

```
<system.net>
  <defaultProxy>
    <bypasslist>
      <add address="127.0.0.1" />
      <add address="::1" />
      <add address="RollupConsoleNameOrIPAddress" />
    </bypasslist>
    <proxy bypassonlocal="True" proxyaddress="http://ProxyNameOrIP:Port" />
  </defaultProxy>
</system.net>
```

## SQL Server のインストール後の注記

### コンピュータ アカウント認証資格情報を許可するようにリモート SQL Server を手動で構成する

**メモ:**ここで説明する手動処理は、製品インストール中に自動アカウント作成処理が失敗した場合にのみ必要です。

統合 Windows 認証を使用して、リモート SQL Server にアクセスする場合、Shavlik Protect が正しくサーバと通信するために、コンピュータ アカウント認証資格情報を許可するようにサーバを構成する必要があります。この作業は、Shavlik Protect をインストールした直後、実際にプログラムを起動する前に、実行することをお勧めします。ただし、プログラムの起動後でも、この手順を実行できます。これよりも前に開始するすべてのスキャンで、リモート SQL Server データベースとの通信が必要な場合、通常はスキャンが失敗します。

このセクションでは、Shavlik Protect コンソールから Windows 認証（コンピュータ アカウント）認証資格情報を許可するように、リモート SQL Server を構成する方法について説明します。セキュリティ上の理由から、Shavlik は可能な限り Windows 認証を使用することをお勧めします。次の例では Microsoft SQL Server Management Studio をエディタとして使用しますが、これ以外の任意のツールも使用できます。

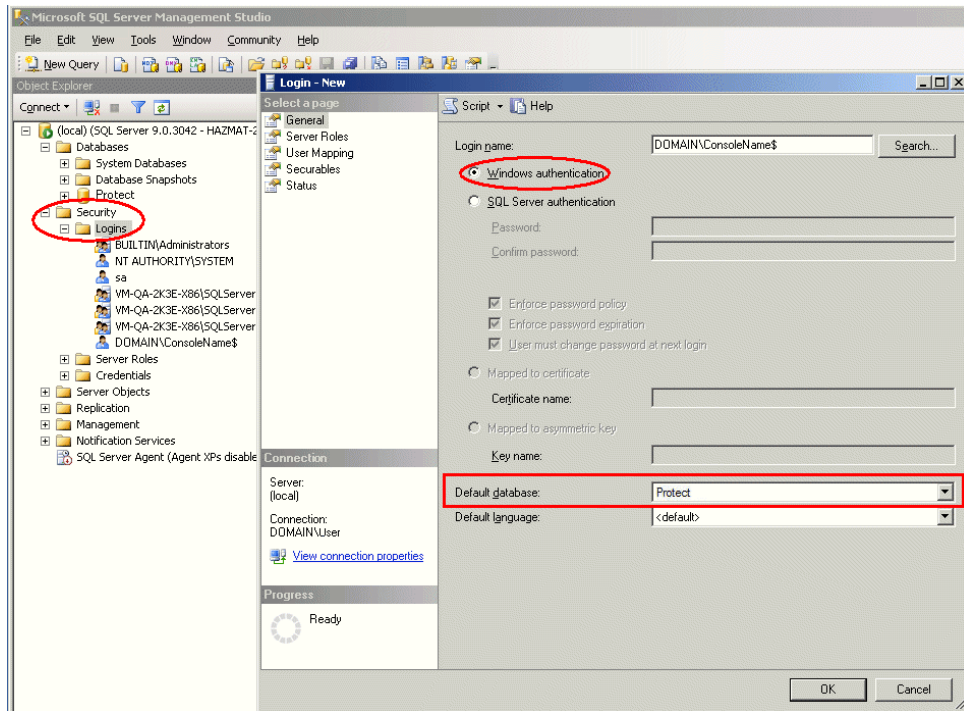
1. Shavlik Protect コンソールと SQL Server は同じドメインに参加するか、信頼できる関係のある異なるドメインに存在する必要があります。  
これにより、コンソールとサーバが認証資格情報を比較し、安全な接続を確立できます。
2. SQL Server で、使用する Shavlik Protect 用に新しいログイン アカウントを作成します。（アカウントを作成するには、*securityadmin* 権限が必要です。）

**手順:** [セキュリティ] ノード内で、[ログイン] を右クリックし、[新しいログイン] を選択します。SAM 対応形式（ドメイン¥コンピュータ名）を使用して、ログイン名を入力します。コンピュータ アカウントはコンソールのコンピュータ名であり、末尾に \$ が付いていなければなりません。

**メモ:** [検索] オプションは使用しないでください。特殊名であるため、手動で名前を入力する必要があります。

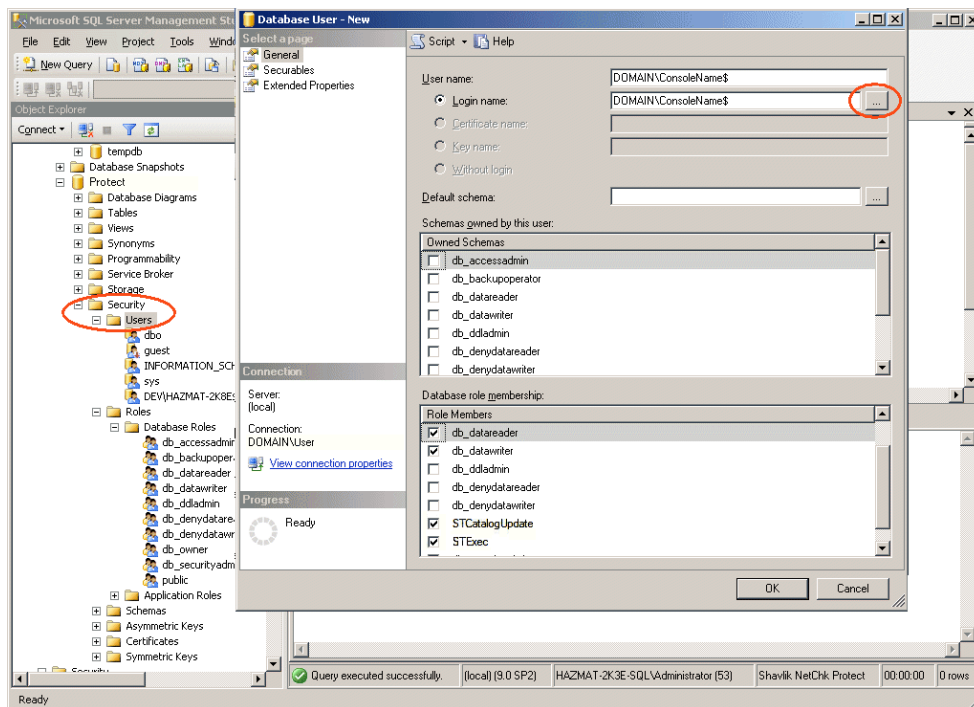
[Windows 認証] を選択し、[既定のデータベース] ボックスで [Shavlik Protect] データベースが選択されていることを確認します。例:

## インストール



3. コンソール コンピュータ アカウントを使用して、Shavlik Protect の新しいユーザ ログインを作成します。

[ユーザ] フォルダを右クリックし、[新しいユーザ] を選択します。ログイン名を参照して検索し、その名前を [ユーザ名] ボックスに貼り付けます。db\_datareader、db\_datawriter、STCatalogUpdate、および STExec ロールをユーザに割り当てます。例:



4. Shavlik Protect を起動します。



5. 必要に応じて、トラブルシューティングを実行します。
  - SQL Server 利用状況モニターを使用し、パッチ スキャンの実行時に接続の試行が成功したかどうかを判断できます。
  - SQL Server ユーザ アカウントを作成する前に Shavlik Protect を実行した場合、一部のサービスが SQL Server に接続できない場合があります。[コントロール パネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択し、サービスを再起動してください。
  - 接続の試行が失敗する場合、SQL Server ログのメッセージを確認することで、失敗の原因を判断できます。

## 他のユーザによるプログラムへのアクセスを許可する

**メモ:**このセクションは、ロール ベースの管理機能を使用している場合にも適用されます。

他のユーザによるプログラムへのアクセスを許可する場合は、ユーザに必要なデータベース アクセス権が割り当てられるように、SQL Server を構成しなければならない場合があります。特に、統合 Windows 認証を使用しているときには、データベース コンピュータ上で管理者権限のないユーザに対して、すべてのテーブルとビューへの読み書き権限を付与する必要があります。また、Shavlik Protect アプリケーション データベース内のすべてのストアード プロシージャの実行権限も付与する必要があります。付与しない場合、Shavlik Protect を起動できない可能性があります。

これらの権限を付与するために、*db\_owner* ロールをユーザに割り当てることができます。ただし、セキュリティ上の理由から、これが最善の方法ではない場合があります。より安全な代替策は、データベース レベルで実行権限を付与することです。このためには、該当するユーザに *STExec* ロールを割り当てます。

## データベースでの定期メンテナンスの実行

Shavlik Protect では、古いスキャンの削除、インデックス ファイルの再構築、およびバックアップを自動的に実行し、データベースの定期メンテナンスを実行できます。詳細については、ヘルプ ファイルの「データベース メンテナンス」を参照してください。

## 製品の使用開始

### Shavlik Protect の起動

**メモ:** Shavlik Protect の全機能を利用するには、管理者権限のある Windows アカウントで実行する必要があります。

Shavlik Protect は次の 2 つの方法で起動できます。

- [スタート] > [すべてのプログラム] > [Shavlik Protect] > [Shavlik Protect] を選択します。
- デスクトップの Shavlik Protect アイコンをダブルクリックします。

ホーム ページが表示されます。

### Shavlik Protect の認証

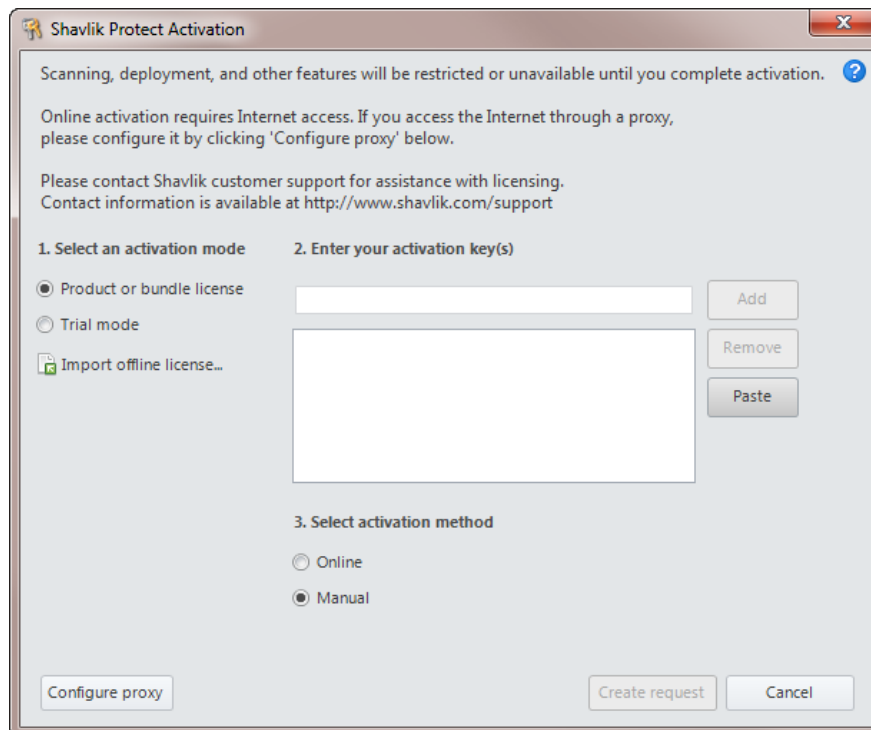
Shavlik Protect を認証するまでは、ごく一部の処理しか実行できません。1 つ以上の認証キーを入力して、プログラムを認証します。Shavlik Protect を認証するには:

1. ライセンス キーの電子コピーがある場合は、コンピュータのクリップボードにコピーします。

一般的に、ライセンス キーは、製品の購入時に、Shavlik から電子メールで送信されます。

2. [Shavlik Protect] メニューから、[ヘルプ] > [ライセンス キーの入力/更新] を選択します。

[認証] ダイアログが表示されます。



3. (任意) このダイアログの起動後までキーをコンピュータのクリップボードにコピーしていない場合は、**[貼り付け]** をクリックします。  
また、認証キーを手入力することもできます。
4. (任意) プロキシ サーバを使用する場合は、**[プロキシの構成]** をクリックし、認証プロセスが認証サーバまで到達するために必要な認証資格情報を指定します。

**ヒント:** ブラウザを起動してインターネットにアクセスするたびに、ユーザ名とパスワードを入力する必要がある場合は、一般的にプロキシ サーバが使用されています。

## インターネットに接続している場合

1. 認証モードを選択します。
  - **製品またはバンドル ライセンス:** このオプションを選択すると、1 つ以上の認証キーを指定できます。複数のキーを受信する場合は、必ずすべてを **[認証キーの入力]** ボックスに貼り付けます。各キーは異なるエディション (Standard、Advanced)、ライセンス数 (ワークステーション、サーバ)、または有効期限を表します。キーは追加できるため、最終的な製品ライセンスは、個別のキーで提供されるすべての機能とライセンス数の集合となります。
  - **試用モード:** 60 日間のみ、Shavlik Protect の全機能を試用できます。50 ライセンスに限定することもできます。試用版ライセンスの有効期限が切れると、データ ファイルの更新が停止し、プログラム機能のほとんどが使用できなくなります。
  - **オフライン ライセンスのインポート:** Shavlik Web ポータルで生成されたライセンスをインポートできます。これは、外部ネットワークに接続されていないコンソール コンピュータによってのみ使用されます。詳細については、次のセクションを参照してください。
2. 認証キーが **[認証キーの入力]** ボックスに入力されていることを確認します。  
入力されていない場合は、キーをコンピュータのクリップボードにコピーしてから、**[貼り付け]** をクリックします。
3. **[オンライン認証]** を選択します。
4. **[すぐにオンラインで認証]** をクリックします。  
認証が成功した場合、「**Protect 製品の認証が正常に完了しました**」というメッセージがダイアログの下部付近に表示されます。
5. **[閉じる]** をクリックします。

## インターネットに接続していない場合（切断ネットワーク モード）

**メモ:**安全な環境外へのファイルの転送を許可しない安全なサイトにいる場合は、この手順を使用できません。この場合は、次の「安全なオフライン ネットワークから認証する場合」セクションを参照してください。

1. 認証モード（製品またはバンドル ライセンス、または試用モード）を選択します。
2. キーを【認証キーの入力】ボックスに貼り付けるか入力します。
3. 【手動】認証を選択します。
4. 【要求の作成】をクリックします。  
LicenseInfo.xml ファイル（XML ファイル）と DisconnectedLicenseInfo.txt（テキストファイル）の 2 つのファイルが作成され、コンソール コンピュータのデスクトップに保存されます。この手順では XML ファイルが使用されます。テスト ファイルは無視できます。
5. この XML 認証要求ファイルをインターネットに接続しているコンピュータに移動します。
6. インターネットに接続されているコンピュータで、ブラウザを開き、  
<https://license.shavlik.com/OfflineActivation> にアクセスします。
7. LicenseInfo.xml 認証要求ファイルをアップロードします。  
Web ポータルはライセンス情報を処理し、ライセンス ファイルを生成します。
8. 処理されたライセンス ファイルをダウンロードし、コンソール コンピュータに移動します。
9. Shavlik Protect で、【ヘルプ】>【ライセンス キーの入力/更新】を選択します。
10. Shavlik Protect の【認証】ダイアログで、【オフライン ライセンスのインポート】をクリックします。
11. 処理されたライセンス ファイルの場所に移動し、【開く】をクリックします。  
Shavlik Protect はファイルを処理し、プログラムが有効になります。

## 安全なオフライン ネットワークから認証する場合

安全な環境外へのファイルの転送を許可しない安全なサイトにいる場合は、この認証手順を使用します。

1. 認証モード（製品またはバンドル ライセンス、または試用モード）を選択します。
2. キーを【認証キーの入力】ボックスに貼り付けるか入力します。
3. 【手動】認証を選択します。
4. 【要求の作成】をクリックします。  
LicenseInfo.xml ファイル（XML ファイル）と DisconnectedLicenseInfo.txt（テキストファイル）の 2 つのファイルが作成され、コンソール コンピュータのデスクトップに保存されます。この手順では XML ファイルが使用されます。XML ファイルは無視できます。
5. DisconnectedLicenseInfo.txt ファイルを開き、ファイルの内容を間違えないように書き留めます。
6. インターネットに接続されているコンピュータで、ブラウザを開き、  
<https://license.shavlik.com/OfflineActivation> にアクセスします。
7. 認証要求データを手入力し、【送信】をクリックします。

Web ポータルはデータを処理し、ライセンス ファイルを生成します。

8. 処理されたライセンス ファイルをダウンロードし、コンソール コンピュータに移動します。
  9. Shavlik Protect で、[ヘルプ] > [ライセンス キーの入力/更新] を選択します。
  10. Shavlik Protect の [認証] ダイアログで、[オフライン ライセンスのインポート] をクリックします。
  11. 処理されたライセンス ファイルの場所に移動し、[開く] をクリックします。
- Shavlik Protect はファイルを処理し、プログラムが有効になります。

## 次の手順

Shavlik Protect をインストールして認証した後、すぐにプログラムのすべての領域を使用し始めることができます。ただし、最高の経験を実現するため、次の手順を実行することをお勧めします。

- コンピュータ グループの作成: コンピュータ グループは、組織内のコンピュータを論理的に整理して追跡するために使用されます。また、Shavlik Protect で、さまざまな処理を実行するために使用されます。詳細については、ヘルプ システムの [インストールとセットアップ] > [コンピュータ グループの使用] を参照してください。
- 認証資格情報の定義と割り当て: 認証資格情報はユーザ名とパスワードの組み合わせです。これらは、リモート コンピュータへのアクセス、スキャンの実行、必要なファイルのプッシュのために使用されます。詳細については、ヘルプ システムの [インストールとセットアップ] > [認証資格情報の指定と管理] を参照してください。
- (オプション) 配布サーバを設定します。配布サーバは、XML データ、スキャン エンジン、パッチ、およびサービス パックを、リモート コンピュータのエージェントとコンピュータに配布するために使用されます。1 つ以上の配布サーバを使用すると、ネットワーク トラフィックを削減し、プログラム処理を高速化できます。詳細については、ヘルプ システムの [共通タスク] > [プログラム処理の構成] > [配布サーバの使用] を参照してください。
- 英語以外を使用している場合、インターネットに接続していると、ローカライズされたバージョンのヘルプ システムを使用できます。[ツール] > [オプション] > [表示] の順に選択し、[ヘルプ トピックの表示] ボックスで [Web] を選択します。

## ライセンスの追跡方法

パッチ配布が実行される時、パッチが存在していない場合は、Shavlik Protect によってデータベースにコンピュータ名が記録されます。ここから、配布可能な残りクライアント数が対象コンピュータごとに 1 ずつ減算されます。Shavlik Protect Agent を使用する時、各エージェント コンピュータにはライセンスが割り当てられ、使用可能なライセンス数の合計に対してカウントされます。同じコンピュータがエージェントレス方式とエージェント方式の両方で管理されている場合は、コンピュータは 1 度だけカウントされます。同様に、仮想マシンをスキャンするときには、オンライン（電源オン）モードとオフライン（電源オフ）モードの両方でスキャンされる場合であっても、コンピュータは 1 度しかカウントされません。

使用済みライセンス数をすばやく確認するには、[ヘルプ] > [Shavlik Protect について] を選択します。例：

